

派遣先所属 宮城県仙台土木事務所
氏 名 金子 祥久 (かねこ よしひさ)
派遣期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

東日本大震災で被災した宮城県では、被災した土木施設を復旧するとともに、新たなまちづくり、住宅整備、防潮堤整備など復興に向けた膨大な事業に対し、職員一丸となって取り組んでいます。その早期実現を支援するため、平成28年4月現在で28都道府県から104名の職員が土木部に派遣されています。

派遣先の仙台土木事務所では、県中央部及び沿岸南部の5市8町1村（仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷町、大衡村）の国道（286号、346号、457号のみ。仙台市内除く。）、県道（仙台市内除く。）、河川（1級、2級（国土交通省管理は除く。）、砂防・急傾斜地等を所管しています。事務所には、私を含めて18都県32名の職員が派遣されています。

埼玉県からの派遣は、道路部道路管理第二班に配属され、道路橋梁等の災害復旧事業、橋梁の耐震化及び復興道路事業（多重防御）を担当しており、宮城県職員、岐阜県職員と埼玉県職員が一丸となって復旧・復興業務に取り組んでいます。

主な業務は、工事費の積算、関係機関との協議調整、工事監督業務です。復旧・復興業務の内容は、橋梁災害復旧、橋梁の耐震化、復興道路事業（多重防御）などです。主な担当工事箇所は、管内南部に位置する亶理町及び山元町を担当しております。



橋梁耐震補強工事(亶理大橋)

被災地（岩手県、宮城県、福島県）における共通の課題かもしれませんが、請負業者の技術者・労働者不足、建設資材の入手難、労務単価の高騰が慢性化しているほか、他機関発注の復旧・復興工事が全盛期となっており、これらに起因する入札不調や相互の事業調整による工事進捗の遅れなどの対応に苦慮しています。

しかし、関係機関と連携しながら、その影響をできる限り軽減し、県民の生活基盤の回復に向けて早期に復旧・復興工事が完了できるよう、引き続き努力したいと思います。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

東日本大震災から5年8ヶ月が経過し、宮城県職員をはじめ都道府県からの派遣職員の努力により、市街地などの物流を支えている主要幹線道路など生活基盤は被災前の水準に近づいてきたように感じます。沿岸部では、瓦礫の処理も完了し、仮設商店街や魚市場なども賑わいを取り戻してきております。

復旧・復興に向けては、津波対策、復興まちづくり、復興住宅の整備を三位一体で同時並行的に進められており、県内各地では住民の方々のご協力を得ながら工事を推進しています。

今後、津波対策、復興まちづくり、復興住宅など事業の加速化が進むことが予想され、今までに宮城県職員が経験したことの無い量の事業を実施する必要があります。また、被害にあった河川、海岸などの復旧・復興が最盛期を迎えています。

そのため、宮城県をはじめとする被災各県では、都道府県からの多大な業務支援を引き続き必要としています。



菖蒲田地区海岸災害復旧事業（七ヶ浜町）